

1 教育目標及び子ども像・教職員像・学校像

教育目標

「進取・敢為・独創」の校是のもと、高い知性を育み、一人ひとりの個性を伸張する学習を展開し、自由な発想と果敢な実行力をもったチャレンジ精神を涵養し、未来社会の一員として調和のとれた豊かな感性を磨くことで、21世紀の国際社会に貢献し活躍できるグローバルリーダーを育てる。

目指す子ども像

- ・自ら課題をみつけ、深く、広く考える生徒
- ・自らの学びを、実践、実行につなげる生徒
- ・社会に目を向け、他者を大切にする生徒

目指す教職員像

- ・自己・外部評価を通して、主体的な自己変革に努める教師。
- ・目前の生徒の姿を、自らの指導の結果として真摯に受けとめる教師。
- ・日々の指導において、生徒の内発的動機を引き出すコーチングを心懸ける教師。

目指す学校像

- ・学力および社会人力を確実にステップアップさせる、充実の中高一貫教育校。
- ・時代を拓きグローバルに活躍する、未来社会のリーダーを育成する中高一貫教育校。

2 学校経営方針

- (1) 全ての教育活動の基本は「授業」である。

授業を通じて探求・活用型学力を涵養し、生徒が社会の一員として積極的に未来社会を創造するリーダーへと成長するよう教育活動を展開する。その上で、学力分析に関する情報を日々の指導に活かし、生徒一人ひとりの進路実現に必要な習得型学力を確実に向上させる。

- (2) 社会で輝く人材の育成をめざして

常に社会との関わりを意識した取り組み（コラボレーション能力）を充実させ、人とつながる力（コミュニケーション能力）を育み、チャレンジ精神を備えた人材育成を目指す。そのために、授業や学校行事・生徒の諸活動を通じて豊かな感性を育て、バランスの取れた人格の形成を図る。

- (3) 効果的・効率的な学校運営

教職員ができる限り生徒と向き合う時間を確保するため、効果的・効率的な校務運営を心がけ、会議・連絡・事務処理等の時間短縮を図る。

3 今年度、徹底する取組

- ・昨年12月に開催した中高合同研究発表大会の成果と課題を受け、具体的な研究活動の計画・組織化を推進する。なかでも中高一貫教育推進部を中心とし、6年間を見通したキャリア教育のカリキュラム編成の完成を目指す。
- ・不調生徒（不登校等）に対して、積極的な予防的手立てと組織的な対応を実践する。

4 学校教育の計画

(1)「確かな学力」の育成に向けて

重点目標

- ・中高一貫 6 年教育における系統的・発展的な教育課程を展開する。特に、中上位層の生徒の意欲を喚起する学習プログラムの工夫を図る。
- ・協働学習を通じて生徒の内発的動機を喚起し、自ら学習に意欲的に取り組む生徒の育成を図る。

具体的な取組

- ・これまで実施してきたサテライト学習（自学自習の時間）の内容と運用を抜本的に見直す。具体的には、まず生徒自身に自らの課題について振り返らせ、学力向上に必要な目標設定を促した上で、自主的に学習するプログラムを展開する。
- ・テスト等のデータ分析から得られた知見をもとに、中高一貫 6 年教育における効果的な教育課程を研究し、中上位層の生徒の学力向上を図る。
- ・教員の教科指導のスキル向上を図るための研修を実施し、生徒自らが学習に意欲的に取り組むための指導方法の研究を推進する。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

- ・生徒一人ひとりの豊かな心を育み、社会と関わり、他者とつながるための実践的な力を育成する。

具体的な取組

- ・生徒会や委員会活動、学級での班活動などを積極的に推進し、協働活動における個々の役割を明確化・評価することで、生徒一人ひとりの自己有用感を高める取り組みをおこなう。
- ・「挨拶指導」を全教職員が意識的に実践し、德育教育の根幹に据える。
- ・教職員が日々の教育実践における学習規律に対する重要性を深く理解し、全ての学習場面において、生徒が自律的に行行動するための指導・支援をおこなう。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

- ・自己の健康状態と生活実態を把握し、自ら健康課題を見つけ解決しようとする態度の育成

具体的な取組

- ・養護教諭、担任が中心となり、生徒自らに継続的な健康観察を実施させることによって、自他の健康に興味・関心を持たせ、自己管理能力の育成を図る。
- ・全教職員が生徒の心身の健康状態の把握に努め、さまざまな場面で共通理解を図り、健康で安全な学校生活を送ることが出来るように支援する。